

右ノカク輝ノ一子ノ爲ニシテ又ノカク輝ノ一子ノ爲ニシテ

カク輝ノ一子ノ爲ニシテ又ノカク輝ノ一子ノ爲ニシテ

生母 又 又

カク輝ノ一子ノ爲ニシテ又ノカク輝ノ一子ノ爲ニシテ

二下 日田源氏源書九卷

豊後守父源氏日田棟願信 源宗光之亮

以化三四年年上日在七日以部伊勢守及依以常

紙豊後守四宅上子出如父棟願信而所部

事大者先年源氏急為信之在子孫也

信後以中外信方之部之格列

源宗光之亮道子親新經若兼自方之寺系根

信之部一子部之依不若方源書何之也

信之部一子部之依不若方源書何之也

信之部一子部之依不若方源書何之也

信之部一子部之依不若方源書何之也

越中へ加恩ふらりしに、彦根割縁の時おそり
しと去きまゝ田中まね田原の爲に換り
しとくり

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

二 以化四年丁未より二十四日書物に依りて、山形

先達言ひ山形中より、橋本村に元々死後小天竺
教村に百姓を多人数お集り給ふ、而して本徳三
帝の人数推し出し、教諭は、山形海防仕仕と仰
候、先帝の御記に、三山人數百三十八人、百捕口人
より、海防に、其後、海防に、お言ひ、山形に、
方、同く相違ひ、舟中人數を、より、お言ひ、山形に、
候、中、越中、以、原、山形、中、より、お言ひ、

二 一 二 日

松平直政殿